

令和7年度 第4回
国府地域振興未来会議議事概要

日 時：令和7年11月26日（水）13時半～15時10分

場 所：国府町地域交流会館

出席委員：山田一孝、前岡美華子、倉持裕彌、福田克彦、吉永昇平、福田明
長尾隆基、矢芝好美、福田大輔、池谷有希

事 務 局：須崎支所長、藪下副支所長兼地域振興課長、吉田産業建設課長
植村市民福祉課長、石原地域振興課長補佐

◎会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 国府地域振興未来会議第1回ワークショップ
- 4 閉会

【概要】

3 国府地域振興未来会議第1回ワークショップ

事務局より資料について説明の後、グループごとにワークショップを開始する。

《グループ①》地域資源を活かした賑わいづくり

【現状把握】

- ・地域の賑わいが分散している。
- ・地元の人がイベントに参加することが大切。地元の人がどれだけ楽しめるか。
- ・自分の育った地域に誇りを持つことが賑わいを生む。
- ・地域が好きな人が増えると賑わいが生まれる。
- ・外へのアピールが必要。
- ・歴史的資源はあるがそこで人が楽しめるかといえば難しい。
- ・いろいろと整備して観光客を呼び込むのは難しい。
- ・観光客に来てもらって「いいね」と言ってもらう循環が必要では。
- ・美歎水源地はどうか、観光を目指した施設か？そういうところが他にもあればいいが。
- ・まず綺麗であることが大事、初期投資は綺麗にすること。
- ・国府は史跡があるとか設備があるとか、観点が分かれている、どう絞るか。
- ・外に向いていくのか、内に向いていくのか。
- ・外向けのPRはやっているのは一握りの人で、全体でやっているイメージが国府にはない。

- ・単発のイベントが盛り上がらないのであれば全体をまとめられないか。
- ・ばらばらのイベントで弱い。
- ・グループ②が地元のことを話し合う気がするのでグループ①は外向けのイメージでいけばいいのでは。
- ・これからの中はデジタルの力が重要で、活用していくことになる。
- ・ガイドクラブとかの需要はあるが、全てを把握していない。
- ・点と点をどうつなぐか。国府町観光協会がどうまわしていくか。
- ・因幡万葉歴史館を利用したらいいと思う。
- ・美歎水源地はすごく頑張っていると思う。
- ・国府は個々の活動が多い気がするので、まとまればもっと大きなことができる。組織としてまとまりが出てくれれば面白いと思う。
- ・イベントを取りまとめ、各種団体をまとめる、個々をまとめる何かがあれば。
- ・地元の人を元気にすること。
- ・発信するための基盤づくり。
- ・基盤づくりの規模にもよるが、大規模な施設整備は困難。
- ・数年先を見据えたら気が重いが、5年なら頑張れる。その後、次の人に繋いでいく内容が重要。

【目標設定】

- ・どういった団体があってどういう活動をしているのか、現状把握が必要。
- ・どの団体も高齢化が進んでいる。ピックアップしていくのはいいが、その後何ができるか。声をかけたはいいが、何をしてあげられるか。
- ・国府を何とかしたいという人が集まらないと国府はよくならない。
- ・地域がその気にならないと進んでいかない。
- ・現状を知って、向かうゴールに対して決めていく。
- ・把握しているところを出して、絞っていくのはどうか。
- ・次の手としては団体を巻き込んで施策を作つて提案する。
- ・どこまでやるかで方向は違うはず。プレイヤーは我々ではなく団体。
- ・ばらばらにある団体に対し、一つにできる提案をする。それに乗ってくるかは団体の自由。プレイヤーはあくまでも団体。
- ・人メインで進めるのもいいが、場所メインでもいいのでは。
- ・申し訳ないけど、活動エリアを限定せざるを得ない。
- ・地元を元気にするために国府をよくしていきたいグループのネットワークの構築、国府の外に対しても魅力的に見えるものを作る。そういうグループをピックアップし、そのグループに対するネットワークづくり。

【次回のワークショップの内容】

次回までに、地域で活動されている団体を事務局でピックアップし、団体に対するアプローチなどについて議論する。

《グループ②》持続可能な地域づくり

【現状把握】

- ・これから住んで良かった、住みたいと思えるのは子ども。子どもがいったん外に出ても帰ってきたいと思うような地域にできたらいい。
- ・子どもがいったん外に出ても、帰って来るためには仕事が必要。
- ・国府で米を作ったら儲けられる、これをやったら儲けられるからここで農業やろうみたいな、農業で儲けられる地域にしたい。農業をしたい人が集まる地域にしたい。
- ・国府は観光というより、駅にも近いし、市内に働きにも出れるし、少し離れると静かで、ベッドタウンという印象。
- ・国府は県内唯一の水稻種子の種場。国府は種場があるということで新規就農者のモデルケースを作りたいと思って取り組んでいる。
- ・子育てするなら国府と言われる地域にしたい。子育てしやすいイコール親も住みやすい。
- ・農業は専門家である農家さんにお任せしては。子どもは光だと思っているので、ここでは子どもが何かチャレンジできるような場を応援することができないか。
- ・国府だからみたいな理由で少し我慢している、妙に納得をして生活をしていることがないような感じがいい。ちょっとしたストレスがない、トータルとして割と住みやすい国府が達成できないかなと思う。
- ・この場でネットワーク作りができて、相談できる人ができた、小売りする人にベッドタウン側が応えてくれるとか、暮らしの安心が少し増やせるとかいった関係性ができたら面白いのでは。
- ・子どもが産まれて、子どもがこのまま育つ環境を考えると、子どもが少ないというのは嫌。子育て世代にとって子どもの数は大事。
- ・親世代が子どもを産むのに大事なことって金銭面ではないか。田舎では稼げないから都会に出ていってしまう。
- ・今度バスの始発がなくなる。朝送り迎えをしないといけなくなる。仕事にも影響が出てくる。
- ・町内に医者が少なく、雪が降った時は諦めるしかない。
- ・国府東小学校の人数が減って、近々複式学級になる。ゆくゆくは宮ノ下小学校と統合ではないかと言われているが、その前に子どもがいなくなってしまうのではないかと心配。
- ・子どもを育てやすいためには、医療・教育・福祉・農業（仕事）の4つ。
- ・外から来た人に対する警戒心が強い。心配してくれているのかもしれないけど、前例があるので、うまく地域との橋渡しをしてもらえたなら。
- ・良かれと思って頑張ろうとしてもそれを嫌う人がいる。もう突き抜けるしかない。
- ・信頼関係が築けると国府の人は情が厚い。

【目標設定】

- ・農業について、現状行政の施策で足りないところや支援してもらいたい所は、水路等のインフラ整備と区画整理と再整備。獣害対策も地域ぐるみで一気に囲ってもらうとか。農地の集約化ができないといけないが、所有者がある問題なのでなかなか進まない。これは空き家の問題と同じ。
- ・地主をまとめる何かないか。
- ・農業の問題は、農業関係の集まりの会でも話ができるし、この場はうまく使ってもらうくらいで農業の議論は並行していくサブテーマ的に据える。
- ・バス路線の話も市とバス事業者とで調整されるであろうし、この場では現状把握し、情報収集・共有していく。
- ・医療の確保は一生懸命してかないといけない課題ではあるが、この場では現情把握を正確にしていく。
- ・教育の問題についても、校区審議会や地元で議論されていくであろうし、この場では、現状把握していく。
- ・グループ②では、子どもの教育環境、もしくは親世代の生活の充実という所に集約していくのではないか。
- ・空き家問題は可能なら親の住みやすさという所に絡めて議論ができたらしい。
- ・親世代が助かるといったら買い物が便利とか。近くにスーパーがあるとか、買い物券がもらえるとか。
- ・国府に住んでいるから得をする、うらやましがられるような何かがないか。市内と国府で迷っているのなら国府に住んだ方がいいよというような何かがあると面白い。
- ・住んだら不便じゃない、国府町はベッドタウンと呼び込んでしまったらしい。呼び込んでちゃんと住むところを作つてあげたら満足度があがる。住んでくれる人たちにちゃんと関われるネットワークをどうやって作つていくか。
- ・ゆるいつながりがない、田舎に行けば行くほどそれがなくなる。そういうゆるいつながりがないから意図的に入れていけたらいいし、そういうつながりが増えてくるといろんなりソースを分配していくことになる。
- ・人のつながりとか、情が厚いとかいうのも人間関係がいいからできるということなので、そういうのを解体しつつ何かしかけられたら面白い。
- ・テーマとして子どもと親世代とあるが、同時に楽しめるといいし、未来会議の委員も楽しめる。真面目にどう楽しめるかを追求したら面白い。
- ・鳥取は、サーフィン・スキー・スノボ・スケボー（4 S）と揃っているので聖地化しては。そういう人を呼び込んで「横乗りのまち」としても面白い。
- ・国府でバスケの大会があり、レベルが高いし有名な人も来るのに国府町民があまり見に来ていない。
- ・そういう人たちを中心としたゆるいつながりもある。

【次回のワークショップの内容】

住んでいる人が楽しくないといけない、子どもが住みたくなるには親がどう楽しめるかが大事。どう親がちゃんと楽しめるまちにしていこうかと考えた時、割と濃い人間関係が引っかかることがあるのではないか、そういうのを突破できるような試みができたら面白い。何かわくわくするようなことをやって、それを外に出していくことを含めて企画を考えていく。

親がちょっと楽しめるような国府にするには、いかに国府だけがおいしい思いができるようなものを作っていくことになるのだが、そういう企画をしていきたい。次回以降は引き続き勉強会を行う。

グループ①とグループ②それぞれが話し合いの内容を発表し、共有した。

4 閉会

次回の開催日時

令和8年2月6日（金）13：30～

国府地域交流会館